



「ゆく年」「来る年」  
「来る年」がいい年でありますように



源昌寺通信  
木漏れ日  
第5号

発行元：浄土宗 源昌寺  
令和6年12月発行

## 千年の善行にも勝る 十夜法要



令和6年12月6日(金)から8日(日)まで3日間、3席で十夜法要を執り行いました。3日間ともいい天気に恵まれ、たくさんのご参詣を頂きました。有難いことです。本年は、佐賀教区南里組浄國寺の上田光俊上人に法話を頂きました。この一年の締めくくり季節に仏さまの教えを聴き、もう一度お念仏の教えを皆さんと一緒に再確認いたしました。お話を聴き、自分を見つめる。また見つめることが出来る時間を少しでもつくるということが大事です。普段は気が付かないけれど、そんな見方があるなあと気づかせて頂くことがとても大事なことです。今年も20名ほどの方が3席とも満行され、記念品をお受けになりました。

## 猪対策ワイヤーメッシュ柵施工完了



8月18日(日)構江古賀の皆さんと一緒にワイヤーメッシュ柵を施工しました。源昌寺とその周辺集落の長年の懸念事項だった「イノシシ」による獣害。今回の施工は墓地の周辺を全て囲むものです。全長200mほどあり、すべて柵で覆うためには、多くの人員とそれなりの予算が必要でありなかなか施工までに至ることがなく、何年も私たちを悩ませていたのですが、やっとその悩みからも解放されそうです。



先代住職の頃に電気牧柵を施工しましたが、雑草が生えるとその効果を成しません。現住職も法事の合間や休みの日に、草払い機を持ち、雑草を刈っていますが、とても追いつく広さではありませんでした。

施工後、様子を見ていますが今のところ、イノシシが山から下りてきて墓地を荒らすことはないようです。

かなりの効果がありました。

残すは、墓地周辺の雑草対策です。何かいい方法はないのでしょうか。



### 源昌寺ホームページ

源昌寺では、平成25年よりホームページを作成しています。こちらもぜひご覧ください。



### 住職コラム

「一心に専ら弥陀の名号を念じて、行住坐臥に時節の久遠を問わず、念に捨てざるもの、これを正定の業と名づく。彼の仏の願に順ずるが故に」

これは、法然上人の著書「選択本願念仏集」に述べられた言葉で、浄土のお教えの基本となるものである。心にひたすら阿弥陀仏の名を念じて、いつでも、どこでも、時間の長短を問わず、一念一念に思いをこめて申すのを、浄土に往生する正しく定められた行と名付ける。これは、阿弥陀仏の本願に適合しているから。という意味である。「念はよく見ると「今」の「心」と書く。仏教、すなわちお念仏の世界では、「今の心」が大事なのである。「今」の「心」を見つめ、そして整え申す「お念仏」。その思いにあるものは、法然上人は、中国の高僧である善導大師の『観経疏』に説かれるこの一文との遭遇によって浄土宗を開宗されたと伝わっている。時間と場所を選ばず、どこでも申すことができるお念仏。それは紛れもない阿弥陀如来様の誓いなのである。静かに心を落ち着かせ、「南無阿弥陀仏」と唱えるとき、何か心が清々しい気持ちになるのはどうしてだろうか。それは、自分という存在を静かに見つめることが出来るからではないだろうか。自然とそんな心に整えていただくとお念仏。感謝のお念仏である。